

令和 4 年度

和歌山県立近代美術館の運営状況に対する評価書

和歌山県立近代美術館

## 和歌山県立近代美術館評価様式(令和 4 年度事業評価用)

1 展覧会(特別展) .....	3
展覧会(企画展).....	5
展覧会(常設展).....	8
2 地域と連携した事業等 .....	13
3 調査・研究 .....	18
4 作品・資料の収集.....	19
5 作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等.....	20
6 教育普及 .....	21
7 国内外との連携.....	24
8 安全と快適性.....	25
9 入場者数と財源の確保.....	27

## 和歌山県立近代美術館評価様式(令和4年度事業評価用)

<p>美術館長による評価</p>	<p>なお継続する新型コロナウイルス感染拡大に対するの防止策を徹底し、当初予定していた展覧会、そして各種事業を開催することができるとともに、入館者数も、目標を約1万人上回ったことは、館員の努力があってこそ可能となったと思われる。展覧会では、和歌山県ゆかりの「稗田一穂展」、そして「とびたつとき 池田満寿夫とデモクラートの作家」展の開催は、当館がこれまで収集してきたコレクションの成果を生かす意味でも貴重であった。これはまた、企画展や「コレクション展」の特集でも同様のことが指摘されると思われる。また、新政策として田辺市立美術館と同分館と連携して展覧会を開催し、この事業は、全国の県立館でも前例のない貴重な取り組みであり、さらに次年度以降も継続しての開催が期待される。そして和歌山県とインドのマハラシュトラ州との覚書の締結10周年を迎えたことを記念し、県国際課の事業に連携した「ミティラー美術館コレクション展」の開催は、今後の当館の活動の幅を広げる上でも有益な事業となった。また、文化庁委託事業「博物館等の国際交流の促進事業」として、当館ならびに太地町歴史資料室、和歌山大学紀州経済史研究所からなる実行委員会により開催した、和歌山からアメリカへの移民の歴史と芸術活動についての国際シンポジウムも、次年度の特別事業「トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」展開催への貴重な一歩となった。</p>
<p>評価部会による評価</p>	<p>依然として新型コロナウイルス感染症の動向に注意を払いながらの活動となり、ひとり美術館のみではいかんともしがたい状況の中で、展覧会をはじめ非常に充実した活動を行っており、高く評価できるものと考えられる。</p> <p>特別展では「稗田一穂展」が綿密な資料調査に基づいて地元ゆかりの作家をしっかりとしょうかいした展覧会として特筆される。紀南地方の田辺市立美術館との共同作業も意義のあることであった。「とびたつとき」展も複数の美術館との共同により開催できたのは当館の活動の蓄積の賜である。</p> <p>企画展、コレクション展も豊富な収蔵作品を背景に、多彩な内容で企画され、いずれも興味深い内容であった。それぞれ企画性の高い内容であり、記録を残す意味でも、せめてパンフレットなどの印刷物の制作が望まれる。</p> <p>また、和歌山からの移民に関連する調査、シンポジウム等は、美術という枠組の外へと活動を広げる内容で、関心を持つ人も多く、今後一層の充実が求められる。</p> <p>事業の実施においても、広報についても、地元には大きなメディアが無いことは美術館の活動にとっては大きな障害であり、和歌山県という枠組の外へ活動の内容を広げていくことを意識した取り組みが求められる。</p>

## 1 展覧会(特別展)

美術館長による所見	今年度は、和歌山県ゆかりの日本画家の大規模回顧展と、広島市現代美術館との合同企画展による2つの特別展を開催できたことは意義深い。「稗田一穂展」は、学生時代の最初期の作品から絶筆まで、一人の日本画家の「人と画業」をふりかえる決定版の展覧会となった。そして「とびたつとき 池田満寿夫とデモクラートの作家」展は、当館がこれまで収蔵してきた池田やデモクラートの作家たちの版画や油彩画、そして資料を活用し、他館との合同企画として実現することができたことは評価される。
評価部会による所見	「稗田一穂展」は、作者が亡くなってからのわずかの機関の中で、残された大量の資料を精緻に調査し、地元ゆかりの作家の活動をしっかりと跡付ける内容であった。作者の人生に寄り添いながら鑑賞を進められる展示であり、むしろ高齢者向けの平易な解説書のようなものがあっても良かったかもしれない。更に資料の調査を進め、新たな作家像や歴史の中での位置づけについて考察を続けてもらいたい。 「とびたつとき」展は広島市現代美術館をはじめとする他館との連携の成果であり、池田満寿夫だけでなく、当館のこれまでの活動と収蔵作品を反映して新たな視点から紹介したものである。このような内容で企画を行える機会は多くないだろうが、チャンスを手に入れるだけ活かしてほしい。 いずれも充実したカタログ制作できたことは、当館としては数少ない機会であり、これまでの活動の蓄積を反映したものであるとして評価できる。

### 特別展-1

#### 稗田一穂展

会 期:令和4(2022)年9月10日(土)―11月6日(日)

会 場:展示室C(2階)

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和4年度目標	2021年3月に100歳で亡くなった、田辺市出身の日本画家・稗田一穂の画業を偲ぶ。新政策により、田辺市立美術館と協力し、互いの所蔵品を中心に、アトリエに遺された作品や資料を共同で調査し、その成果も紹介する。
自己評価・課題・改善案	展覧会の開催が決まり、実際にアトリエに調査に入ることができたのは開会まで10か月に迫った頃であった。85年を超える画家活動に関わる膨大な資料が残されていることが判明し、限られた時間のなかで全てを確認、整理するには無理があったが、制作の背景に迫る資料を見出し、展示の中で紹介することができた。画業全体を紹介するほぼ初めての機会として、当館と田辺市立美術館のコレクションを生かしながら、今後の稗田の評価や戦後の日本画の展開に示唆を与える開会を提供できたと考えられる。残された膨大な資料の確認と整理が今後の課題として残っている。作品78点、資料類45点を出品した。

#### B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和4年度目標	図録、ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター(B2判)、チラシ(A4判)、図録(A4判192頁)、プレスリリース(A4判4頁)、出品目録(A4判6頁)、作品解説(A4判8頁)を制作した。

#### C. 関連事業

令和4年度目標	講演会、フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども美術館部「あっちとこっち」10月22日(土)、10月23日(日) 11時から12時、2階展示室 参加人数13人</li> <li>記念講演会「稗田先生の作品と思い出」講師:滝沢具幸(日本画家、創画会副理事長、飯田市美術博物館館長、武蔵野美術大学名誉教授) 10月16日(日)14時から15時30分 2階ホール 参加人数52人</li> <li>ワークショップ「月によせる」講師:宮いつき(日本画家、創画会会員、多摩美術大学教授) 9月23日(金・祝) 10時から15時30分 参加人数9人</li> <li>フロアレクチャー[学芸員による展示解説] 9月18日(日)、24日(土)、10月9日(日)、30日(日) 各回14時から、2階展示室 参加人数92人</li> </ul>

#### D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和4年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故なく会期を終え、借用した作品も無事に返却した。

#### E. 入館者数

令和4年度目標	8,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	6,707人であった。

### 特別展-2

とびたつとき 池田満寿夫とデモクラートの作家

会期:令和5(2023)年2月4日(土)―3月31日(金)[4月9日(日)]

会場:展示室C(2階)

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和4年度目標	広島市現代美術館との合同企画展。同館の池田満寿夫コレクションと当館コレクションを合わせ、マルチ・タレントとしても知られた池田満寿夫の作品とその出発点となったグループ「デモクラート美術家協会」の作家たちを紹介。展覧会の中心となる部分はそのままに、各館で変化を加えながら宇都宮美術館、長野県立美術館、広島市現代美術館で開催の予定。
自己評価・課題・改善案	広島市現代美術館との合同企画展として、同館の池田満寿夫コレクションと当館コレクションおよび個人蔵品を合わせ、マルチ・タレントとしても知られた池田満寿夫の作品とその出発点となったグループ「デモクラート美術家協会」の作家たちを紹介した。I デモクラートとの出会い 1950-1956、II 起点としての瑛九 1950-1957、III 夜明けまえ 1957、IV それぞれのとびたつとき 1958-1966、V 池田満寿夫 とびたつとき 1958-1966の5章により構成。和歌山で開催後、宇都宮美術館(4月30日-6月18日)、長野県立美術館(9月9日-11月5日)、広島市現代美術館(令和6年1月20日-3月17日)へと巡回する。9作家267点を出品した。

#### B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和4年度目標	図録、ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター(B2判)、チラシ(A4判)、プレスリリース(A4判4頁)、出品目録(A4判10頁)、図録(B5判変形248頁)

#### C. 関連事業

令和4年度目標	講演会、フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	・講演会「わたしの版画事始め」講師:山本容子(銅版画家)2月4日(土)14時から、2階ホール60名 ・フロアレクチャー(学芸員による解説会)2月12日(日)、3月18日(土)14時から、2階展示室参加人数41人 ・こども美術館部「でも、でも、でも」2月18日(土)、19日(日)各日11時から12時、2階展示室参加人数15人

#### D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和4年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	無事に会期を終了し、巡回先の会場への作品輸送も事故なく行っている。

#### E. 入館者数

令和4年度目標	8,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,682人

## 1 展覧会(企画展)

美術館長による所見	当館コレクションを活用した「企画展」では、版画、油彩画の作品を、現代そして近代の視点から再考する機会となった。また12回目を数える恒例の「なつやすみの美術館」では、湯浅町在住の若手作家を紹介し、当館でのフロアーレクチャーやワークショップとともに、新政策により田辺市立美術館分館・熊野古道なかへち美術館でもワークショップや展示を実施し、作家自身の協力はもとより、当館の活動の広がりを示すことができた。
評価部会による所見	いずれも当館の収蔵作品に基づきながら、それぞれ独自の観点から企画、構成されており、収蔵作品を活用するという観点からも優れた活動であると言える。収蔵作品に対して固定した見方ではなく、常に新たな視点から見直そうとする姿勢が反映したのものとして、企画者の熱意が感じられる内容である。 海外の版画作品を紹介した「モダン・プリント」、湯浅町出身の妻木良三を招いた「はじまりの風景」、近代の日本に移入された油彩画に着目した「ニッポンの油絵」と内容もバラエティに富んでおり、「はじまりの風景」で展示記録が冊子に残されたのは必要な取り組みであった。できれば他の展示も何らかの記録を形に残すことに取り組んでいただきたい。

### 企画展-1

モダン・プリント コレクションにみる世界の版画

会 期:令和4(2022)年4月9日(土)―6月26日(日)

会 場:展示室C(2階)

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和4年度目標	当館が誇る版画コレクションから19世紀末以降の西洋版画の名品を紹介する。
自己評価・課題・改善案	歌山県立近代美術館が誇る版画コレクションから19世紀末以降の西洋版画の名品を紹介し、「近代と版画」「木版画とジャポニスム」「画家と版画」「版画と書籍」「版画と印刷」「色彩と版画」「版画と協働」「ふたつのビエンナーレ:東京・和歌山」の8章構成で、版画と近代美術の関係を再考した。54作家 237点(前期:202点/後期:203点)、資料7点を出品した。

#### B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和4年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター(B2判)、チラシ(A4判)、プレスリリース(A4判4頁)、出品目録(A4判4頁)

#### C. 関連事業

令和4年度目標	コンサート、フロアレクチャー、こども美術館部等を実施する。
自己評価・課題・改善案	・フロアレクチャー(学芸員による展示解説) 4月30日(土)40人、5月15日(日)10人 5月29日(日)34人 各回14時より ・こども美術館部「それはこうかもしれない」2022年5月14日(土)、15日(日)11時から12時 参加人数10人

#### D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和4年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	近代美術の根本的な視点を軸に、版画の特性、近年の展覧会成果や当館の歴史を絡めて構成した。書籍作品のページをスライドショー化し、翻訳をつけたアニメーションを作成してモニターで展示し、理解の一助として提供した。一般来館者の関心も高く、通常のコレクションによる企画展枠としては比較的人館者数を集めることができた。

#### E. 入館者数

令和4年度目標	3,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	6,625人

## 企画展-2

なつやすみの美術館 12 妻木良三「はじまりの風景」

会 期:令和 4(2022)年 7 月 5 日(火)―9 月 4 日(日)

会 場:展示室 C(2 階)

### A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和 4 年度目標	鉛筆などで独自の世界を描き出す和歌山県湯浅町出身の妻木良三(1974-)さんをゲストに迎え、展覧会を構成する。作家の作品と、作家が収集した標本類、当館コレクションなどを組み合わせた展示により、作家のものの見方や感覚を共有する。新政策により田辺市立美術館分館・熊野古道なかへち美術館でもワークショップや展示を行う。
自己評価・課題・改善案	「はじまりの〇―「境景」」、「のぞき見る〇」、「外界との境界 ―「Zone(ゾーン)」」、「襷(ひだ)について―「境現の襷」「始景」、「コレクションの部屋」、「化石とはじまり ―「untitled」から」の章によって、展覧会を構成した。作家の作品と、作家が収集した標本類、当館コレクションなどを組み合わせた展示により、作家のものの見方や感覚を共有した。新政策により田辺市立美術館分館・熊野古道なかへち美術館でもワークショップや展示を行った。妻木良三作品 32 点、当館コレクション 42 点、標本資料など 16 点、1 件を出品した。

### B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和 4 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター(B2 判)、チラシ(A4 判)、プレスリリース(A4 判 4 頁)、出品目録(A4 判 5 頁)、ワークシート「つまきりょうぞ〜ん」(A4 判 4 頁)、展覧会記録集(A4 判 48 頁)

### C. 関連事業

令和 4 年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部等を実施する。
自己評価・課題・改善案	・フロアレクチャー(学芸員による展示解説) 8 月 6 日(土)、8 月 20 日(土) 各日 14 時から 1 時間程度 2 階展示室 参加人数 18 人 ・こども美術館部「さいしよのさいしよ」 7 月 23 日(土)、7 月 24 日(日) 各日 11 時から 12 時、2 階展示室 参加人数 12 人 ・夏休みアートワークショップ 7 月 31 日(日) 13:00―15:00 展示室、ホールなど 講師:妻木良三 参加人数 26 人 ・夏休みアートワークショップ 串本編:8 月 21 日(日) 10:00―13:00 和歌山県立潮岬青少年の家研修室および化石資料館、講師:妻木良三、左向幸雄(化石研究家) 主催:和歌山県文化振興財団 協力:和歌山県立近代美術館、NPO 法人潮岬おもしろランド体験学習推進協議会(串本編のみ)、企画運営協力:NPO 法人和歌山芸術文化支援協会(wacss) 参加人数 15 人 ・たまごせんせいとわくわくアートツアー(和歌山大学美術館部) 8 月 14 日(日)、16 日(火)~19 日(金) 各日 13:00~14:00、15:00~16:00 ・対談:中島智×妻木良三 9 月 3 日(土)15 時から 2 階ホール 参加人数 84 人

### D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和 4 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	無事二期を終了し、作品や資料類を事故なく所蔵者に返却した。

### E. 入館者数

令和 4 年度目標	10,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	7,919 人

### 企画展-3

ニッポンの油絵 近現代美術をかたち作ったもの

会 期:令和4(2022)年11月12日(土)―12月25日(日)

会 場:展示室C(2階)

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和4年度目標	所蔵品を中心に、川口軌外、村井正誠、原勝四郎など、明治期以降に普及した日本の油彩画を紹介。当時の画家たちが感じていた油彩画の魅力をあらためて探る。
自己評価・課題・改善案	図録やパンフレットを作れないなかで、「油絵へのまなざし」「油絵がきた」「油絵で学ぶ」「油絵で育つ」「油絵の表情」「あたらしい素材のなかでも油絵」の6つの章のパネルの解説に力を入れた。また、油絵を紹介し、同時代の人々の憧れをかきたてた雑誌などの資料展示を充実させ、来館者の知りたい気持ちに応えようと努めた。解説パネルを撮影する来館者も多く、やはり、なにか印刷物が必要だったかと反省し、レクチャーのときには、解説をまとめたパンフレットを作った。48作家85点、資料14点を出品した。

#### B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和4年度目標	ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター(B2判)、チラシ(A4判)、プレスリリース(A4判4頁)、出品目録(A4判4頁)

#### C. 関連事業

令和4年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部等を実施する。
自己評価・課題・改善案	・スライドレクチャー(学芸員による解説会)11月19日(土) 38名、12月3日(土) 13名、12月24日(土) 34名、各日14時から1時間程度、2階ホール 参加人数85人 ・こども美術館部「ア・ブ・ラ・カ・ダ・ブ・ラ」:12月17日(土) 11時から12時、2階展示室 参加人数5人

#### D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和4年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故なく会期を終了した。

#### E. 入館者数

令和4年度目標	3,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,078人

## 1 展覧会(常設展)

美術館長による所見	4つのコレクション展示を開催し、県展とジュニア県展の会期に合わせた「名品選」とともに、春から冬にかけて開催した3つのコレクション展では、それぞれに特集展示を実施し、コレクションを活用した新鮮な切り口を提示することができた。これら「特集」だけでひとつの企画展が開催できるほどの充実した内容となり、常設展示の新たな方向性が持続して示されている。
評価部会による所見	いずれの展示も、できる限りいつでも見られるように公開する作品と、特集展示の内容がバランスよく構成された内容であった。特集展示でしようかいされる作品は、この機会を逃すと見ることの難しいものも多く含まれており、その都度印刷物で記録が残されることが望まれる。特に田中恭吉の作品は、過去に何度か図録を作られているが、すべて売り切れており、展示の機会にパンフレットのようなものでも作れば良かった。同様に田中恒子氏から寄贈された作品も、展覧会の折にまとめられたカタログは売り切れており、更に作品が増えていることから、コレクターとしての田中恒子氏の視点に依拠した構成の印刷物をまとめることが望まれる。作品の寄贈が多いのは、この美術館が着実な活動を行っていることを評価されているものであり、奈良原一高の特集展示のように、まとめてまとめて紹介する機会を作っていることは、更に作品収蔵に対する評価を高めるものだろう。

### 常設展-1

コレクション展 2022-春夏

特集「生誕 130 年 田中恭吉」

会 期:令和 4(2022)年 4 月 29 日(金・祝)ー7 月 3 日(日)

会 場:展示室 A・B(1 階)

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和 4 年度目標	所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示する。特集として「生誕 130 年 田中恭吉」を実施する。
自己評価・課題・改善案	田中恭吉の 10 年ぶりの特集展示として、イメージが生成し展開する様子が伝わるよう、画稿と完成作や文字草稿をあわせて展示した。10 年ぶりにも関わらず、広報が足りないという電話があった。情報を必要としている人に如何に伝わるように告知するかが課題である。またフロアレクチャーでは、初めて田中恭吉作品に触れる人と、すでによく知っている人の両方に関心を高めてもらうのが難しかった。

#### B. パンフレット・出品目録等の制作

令和 4 年度目標	出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	出品目録(コレクション展:A4 判 4 頁/特集:A4 判 4 頁)

#### C. 関連事業

令和 4 年度目標	フロアレクチャー等を開催する。
自己評価・課題・改善案	・フロアレクチャー 4 月 29 日(金・祝)、6 月 12 日(日) 参加人数 28 人

#### D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和 4 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故なく無事に会期を終えた。

#### E. 入館者数

令和 4 年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,837 人

## 常設展-2

コレクション展 2022-夏秋

特集「1960s-1980s 関西の現代美術「再見」」

会 期:令和 4(2022)年 7月 16 日(土)―9 月 25 日(日)

会 場:展示室 A・B(1 階)

### A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和 4 年度目標	所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示する。特集として「1960s―1980s 関西の現代美術「再見」」を実施し、当館が開館した 1970 年前後に制作され、その後当館のコレクションとなった 1960 年代から 80 年代の作品群によって、「現代美術」と呼ばれる動向を再見し、時代状況を探る。
自己評価・課題・改善案	特集として展示室のほぼ全てを使って各作家の代表的作品を多数展示することで、当館の関西の戦後美術コレクションが、質・量ともに全国トップクラスであると示すことができた。また、当館で過去に開催された「関西の美術家シリーズ」や「和歌山版画ビエンナーレ」の展覧会図録等の資料も同時に展示し、積極的な収蔵がなされた時代の活動も紹介できた。同時期に兵庫県立美術館や西宮大谷記念美術館等で開催された他館の展覧会とも連動し、関西の戦後美術再評価の機運を盛り上げることができた。図録の予算がなく、詳細な記録を残せなかったのは今後の課題である。64 作家 111 点、資料 19 点を出品した。

### B. パンフレット・出品目録等の制作

令和 4 年度目標	出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	チラシ(A5 判)、プレスリリース(A4 判 3 頁)、出品目録(A4 判 8 頁)を作成した。

### C. 関連事業

令和 4 年度目標	フロアレクチャー等を実施する。
自己評価・課題・改善案	・フロアレクチャー 7月 23 日(土)、8 月 11 日(木・祝) 14 時から 1 階展示室 参加人数 16 人 ・こども美術館部「ふたたびたびたび」9 月 10 日(土)、9 月 11 日(日) 11 時から 12 時 1 階展示室 参加人数 12 人

### D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和 4 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故なく会期を終えた。

### E. 入館者数

令和 4 年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	6,635 人

### 常設展-3

#### コレクション展 2022-秋冬

##### 特集「田中恒子コレクション」

会 期:令和 4(2022)年 10 月 8 日(土)―12 月 25 日(日)

会 場:展示室 A・B(1 階)

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和 4 年度目標	所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示する。2009 年に「自宅から美術館へ」展で紹介して以降、継続して寄贈を受け入れられている「田中恒子コレクション」を特集展示する。
自己評価・課題・改善案	「自宅から美術館へ」展で紹介した以降に受け入れた作品を合わせて、1300 点を超える田中恒子氏のコレクションの核となる部分を紹介できた。新たに受け入れた作品も含めてまとめた印刷物の作成も望まれるが、オンラインでのデータベースでの公開により、把握できるようになることが期待される。また学校教育との連携を図り、日本教育美術連盟全国大会の研究授業の題材として、授業内容の策定から実施に協力した。84 作家 275 点を展示した。

#### B. パンフレット・出品目録等の制作

令和 4 年度目標	出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	プレスリリース(A4 判 3 頁)、出品目録(A4 判 12 頁)を作成した。

#### C. 関連事業

令和 4 年度目標	フロアレクチャー等を実施する。
自己評価・課題・改善案	・フロアレクチャー 10 月 8 日(土)、11 月 3 日(木・祝)、11 月 12 日(土)、12 月 25 日(日) 14 時から 1 階展示室 A 参加人数 52 人

#### D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和 4 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故なく会期を終えることができた。

#### E. 入館者数

令和 4 年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	7,365 人

## 常設展-4

### コレクション名品選

会 期:令和 5(2023)年 1 月 7 日(土)—1 月 22 日(日)

会 場:展示室 B(1 階)

#### A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和 4 年度目標	県展、ジュニア県展の会期に合わせて開催するため通常より 1/3 の規模となり、コレクションからよりすぐった作品を展示する。
自己評価・課題・改善案	県展、ジュニア県展の会期に合わせ、コレクションから名品を選び、特に彫刻作品を多く展示した。展示室の一部を作品保管のために使わざるを得ず、限られた面積に多数の作品を展示することとなり、窮屈な印象を与えたかもしれない。ジュニア県展の会期と重なるため、作品の展示を低めに設定し、親しみやすさを演出した。作家や作品についての情報をより多く提供できるように取り組みたい。40 作家 47 点を展示した。

#### B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和 4 年度目標	出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	プレスリリース(A4 判 2 頁)、出品目録(A4 判 8 頁)

#### C. 関連事業

令和 4 年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	会期中県展の作品解説やワークショップが行われたため実施しなかった。

#### D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和 4 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	無事に会期を終え、若干の作品を展示替えして次の期間のコレクション展の一部としても実施した。

#### E. 入館者数

令和 4 年度目標	1,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	1,476 人

## 常設展-5

コレクション展 2023-春

特集「新収蔵 奈良原一高の写真」

会期:令和5(2023)年2月11日(土・祝)—5月7日(日)

会場:展示室A・B(1階)

### A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和4年度目標	所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示する。新たに収蔵された奈良原一高の写真作品を特集して展示する。
自己評価・課題・改善案	「とびたつとき」展に関連して、デモクラート美術家協会に参加した泉茂や吉原英雄らの同僚や教え子らの作品を多く紹介した。また新たに収蔵された奈良原一高の写真作品から、「無国籍地」「人間の土地」「王国」を特集して展示した。87作家125点(うち奈良原一高95点)を展示した。前半は「とびたつとき」展に関連してデモクラート美術家協会の作家たちの大学での教え子や同僚の作品を紹介。季節にちなんだ洋画、日本画を挟んでキュビズムの表現を紹介した。特集展示では、池田と奈良原が同じグループなどで行動をともにした1950年代に注目して、この時代の奈良原の代表作「無国籍地」「人間の土地」「王国」から展示を構成することで、美術と写真における時代の革新を示すことができた。師弟や研究者それぞれの視点による講演や、写真家照井氏と共に行ったレクチャーも作品理解のための充実した機会となった。写真展示を楽しみ来館される方も多く、継続してこの分野の充実を図っていきたい。

### B. パンフレット・出品目録等の制作

令和4年度目標	出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	プレスリリース(A4判5頁)、奈良原展チラシ(A4判)、出品目録(コレクション展:A4判8頁/奈良原展:A4判6頁)

### C. 関連事業

令和4年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	・講演会「写真家 奈良原一高の誕生した瞬間」より 講師:新美虎夫(奈良原一高アーカイブズ代表) 2月11日(土)14時から15時30分 2階ホール 参加人数31人 ・講演会 壁 奈良原一高「人間の土地」から「王国」へ 講師:蔦谷典子(島根県立美術館主任学芸員) 3月19日(日)14時-15時30分 2階ホール 参加人数35人 ・フロアレクチャー 3月11日(土)、4月8日(土) 14時から 1階展示室 写真家・照井荘平氏とともに 参加人数87人

### D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和4年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	無事に会期を終えた。

### E. 入館者数

令和4年度目標	3,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	5,403人

## 2 地域と連携した事業等

<p>美術館長による所見</p>	<p>今年度は、下記に示すように多岐にわたる事業が展開できた。「デジタル化計画」は、まさに現在の博物館事業の根幹を成すものあり、当館ほかの県立博物館の協力の上に、さらなる継続によってその成果の公表を行いたい。また、紀南地方の美術館と共同して開催した「稗田一穂展」や「なつやすみの美術館 12」で紹介した妻木良三氏によるワークショップと展示も、特筆される。</p> <p>さらに、和歌山県とマハラシュトラ州との覚書の締結 10 周年を迎えたことを記念し、県国際課の事業として、「ミティラー美術館コレクション展」の開催でも、同館館長・長谷川時夫氏との交流が深められ、今後の当館の活動の幅を広げる上貴重であった。また、文化庁委託事業「博物館等の国際交流の促進事業」として、当館ならびに太地町歴史資料室、和歌山大学紀州経済史研究所からなる実行委員会により、和歌山からアメリカへの移民の歴史と芸術活動について関連する国内外の博物館等と連携・協働し、当初の目標どおり関連のシンポジウムを開いた(12月11日)ことも、次年度の特別事業「トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」展開への布石となった。</p>
<p>評価部会による所見</p>	<p>展覧会事業予算が逼迫する中で、様々な機会を捉えて事業を行っていることは評価できる。デジタル化計画において収蔵作品を紹介するポータルサイトを公開することは、博物館法の改正もあり、時宜を得た取り組みである。紀南地方との展覧会も、文化の裾野を広げる取り組みとして重要である。紀南以外での普及についても期待したいが、美術館だけで取り組めることなく、県や地元の応援をどれくらい得られるかが重要だ。「ミティラー美術館コレクション展」も国際課の事業であるが、当館で開催したことによって広い層の関心を惹き、内容も充実したものと思われる。「和歌山移民研究を軸とした国際交流事業」は、年度途中から取り組んだ事業とのことで、実施には多くの労力が割かれたものと思われるが、県内各地域の施設や研究者との連携を背景に、シンポジウムなど充実した内容になっている。展覧会を含めて次年度の活動へと継続していただきたい。また、県内で研究を進め、資料を残していこうとしている活動とさらなる連携を深めるとともに、県内にとどまらず、広く活動を発信して移民の歴史や活動への理解を広めることに取り組んでいただきたい。</p>

### ①和歌山県立博物館施設デジタル化計画事業

#### A. 事業の内容と目標

<p>令和 4 年度目標</p>	<p>和歌山県立近代美術館、和歌山県立博物館、和歌山県立紀伊風土記の丘の 3 館がそれぞれ、収蔵品・資料データベースを各館のウェブサイトで公開するとともに、3 館の資料を横断的に検索できるシステムと各館の活動を紹介するポータルサイトを設置、拡充する。R4-6 年度の3か年継続事業。画像等は段階的に追加しており、3か年で約 7500 点の画像公開を目標とする。</p>
<p>自己評価・課題・改善案</p>	<p>令和4年度は、令和3年度までの収蔵作品約 12000 点の文字データを公開し、次年度以降の展開の土台を作成した。作品データベース以外には、県内の博物館施設の紹介ページ等を作成した。</p>

## ②紀南地方との合同展覧会 稗田一穂展

会 期:令和 4(2022)年 11 月 19 日(土)―令和 5(2023)年 1 月 15 日(日)

会 場:田辺市立美術館(田辺市たきない町 24-43)

主 催:田辺市立美術館・和歌山県立近代美術館

### A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和 4 年度目標	近代美術館への来館が困難な紀南地方の美術館と共同して展覧会を開催する。今年度は田辺市立美術館と共同で稗田一穂展を開催する。また「なつやすみの美術館 12」で紹介した妻木良三氏によるワークショップと展示を行う。
自己評価・課題・改善案	画家の生地にある田辺市立美術館では、分館となる熊野古道なかへち美術館と 2 会場で展示を行い、特に熊野古道なかへち美術館では、画家が後半期に主要なテーマとした熊野の風景を描いた作品を集めるなど、当館とは異なる会場構成により展覧会を実施した。合わせてワークショップや講演会を実施し、その作品や生涯を多角的に紹介する機会を設けた。

### B. パンフレット・出品目録等の制作

令和 4 年度目標	ポスター、チラシ、図録、出品目録、ワークシート等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター(B2 判)、チラシ(A4 判)、図録(A4 判 192 頁)、プレスリリース(A4 判 4 頁)、出品目録(A4 判 6 頁)、作品解説(A4 判 8 頁)

### C. 関連事業

令和 4 年度目標	ワークショップ、レクチャー等を開催する。
自己評価・課題・改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども美術館部「あっちとこっち」 10 月 22 日(土)、10 月 23 日(日) 11 時から 12 時、2 階展示室 参加人数 13 人</li> <li>・記念講演会「稗田先生の作品と思い出」 講師:滝沢具幸(日本画家、創画会副理事長、飯田市美術博物館館長、武蔵野美術大学名誉教授) 10 月 16 日(日)14 時から 15 時 30 分 2 階ホール 参加人数 52 人</li> <li>・ワークショップ「月によせる」 講師:宮いつき(日本画家、創画会会員、多摩美術大学教授) 9 月 23 日(金・祝) 10 時から 15 時 30 分 参加人数 9 人</li> <li>・フロアレクチャー[学芸員による展示解説] 9 月 18 日(日)、24 日(土)、10 月 9 日(日)、30 日(日) 各回 14 時から、2 階展示室 参加人数 92 人</li> </ul>

### D. (A,B,C 以外の)展覧会の工夫

令和 4 年度目標	学校から会場までのバスを運行し地域の中学生を中心に来館を促す。
自己評価・課題・改善案	実施しなかった。

### E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和 4 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	無事に会期を終え、出品者に事故なく作品を返却した。

### F. 入館者数

令和 4 年度目標	10,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	和歌山県立近代美術館 6,707 人、田辺会場 2,089 人

③和歌山県とインド・マハラシュトラ州との友好交流による ミティラー美術館コレクション展 インド・コスモロジーアートの世界

会 期:令和 4 年(2022)年 10 月 8 日(土)ー12 月 25 日(日)79 日間・うち休館 11 日

会 場:展示室 B(1 階)

主 催:和歌山県、和歌山県立近代美術館

特別強力:在大阪・神戸インド総領事館

協 力:エアインディア

A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和 4 年度目標	令和 4(2022)年、日本とインドの国交樹立 70 周年、インド独立 75 周年を迎え、さらに令和 5(2023)年に和歌山県とマハラシュトラ州との覚書の締結 10 周年を迎えることを記念し、県国際課の事業として、独自のコスモロジーを表現するインド美術を収集してきたミティラー美術館(新潟県)のコレクションからミティラー画、ワルリー画、ゴンド画、テラコッタなどを紹介する。
自己評価・課題・改善案	ミティラー美術館での滞在制作による大型作品を中心に、インドと日本の出会いによって生まれた新しいフォークアートを紹介。来場者にインパクトを与え、多数のリピーター客を獲得できた。また、関連事業も、ミティラー美術館のほか、在大阪・神戸インド総領事館の協力もあってバラエティ豊かなものとなり、各種トークや講演会のほか、長谷川館長を含むアーティストたちのライブ、現地の人々を招いてのインド舞踊やインド伝統工芸士 5 名による実演等も実施することができた。

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和 4 年度目標	ポスター、チラシ、図録、出品目録、ワークシート等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター(B2 判)、チラシ(A4 判)、プレスリリース(A4 判 3 頁)、出品目録(A4 判 4 頁)、作家解説(A4 判 3 頁)、作品解説(A4 判 8 頁)、長谷川時夫トーク&ライブ「タージ・マハル旅行団から美術館へ」リーフレット(A3 判二つ折 4 頁)

C. 関連事業

令和 4 年度目標	ワークショップ、レクチャー等を開催する。
自己評価・課題・改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インド舞踊のパフォーマンス(展覧会オープニングに合わせて実施) 出演:グル・ジェラム・アビナーシュ・プランジャパー主宰オディッシー舞踊団「スマトレ」 10 月 7 日(金)15 時から 15 時 30 分 屋外アプローチプラザ</li> <li>・ミティラー美術館館長によるフロアレクチャー 講師:長谷川時夫(ミティラー美術館館長) 10 月 9 日(日) 13 時から 階展示室 B 参加人数 43 人</li> <li>・インドの伝統工芸士 5 名によるデモンストレーション「インド独立 75 周年・日印国交樹立 70 周年記念 インド 手しごとの世界〜木・竹・布・革〜」 10 月 18 日(火)ー10 月 20 日(木)各日 11 時から 15 時 1 階リーディングコーナー</li> <li>・長谷川時夫トーク&amp;ライブ「タージ・マハル旅行団からミティラー美術館へ」 11 月 5 日(土)15 時 30 分ー18 時 30 分 2 階ホール トーク:川崎弘二(電子音楽研究)、長谷川時夫/ライブ: Stone Music(長谷川時夫、金子ユキ、堺啓介、むんな、Endurance、Tatsuro Murakami、TOMC、大野馨、櫻井秀武、西村仁美、藤原るか、前谷康太郎) 参加人数 68 人</li> <li>・講演会「現代に生きるインドのフォークアート」 講師:中尾智路(福岡アジア美術館学芸員) 12 月 18 日(日)14 時ー15 時 30 分 2 階ホール 参加人数 17 人</li> </ul>

D. (A,B,C 以外の)展覧会の工夫

令和 4 年度目標	ミティラー美術館長である長谷川時夫氏の活動の紹介も行う。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャー、講演会、ライブを通してタージ・マハル旅行団での活動がミティラー美術館につながった経緯を紹介した。

#### E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和4年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	無事に会期を終え、出品者に事故なく作品を返却した。

#### F. 入館者数

令和4年度目標	3,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	7,365人

#### ④第76回和歌山県美術展覧会(県展)／第8回和歌山県ジュニア美術展覧会

県展会期:令和5(2023)年1月11日(水)―1月15日(日)5日間

県展会場:展示室A(1階)・C(2階)

ジュニア県展会期:令和5(2023)年1月18日(水)―1月22日(日)5日間

ジュニア県展会場:展示室A(1階)

主催:和歌山県

共催:和歌山県教育委員会、和歌山県立近代美術館、和歌山県美術家協会、毎日新聞社和歌山支局、一般財団法人和歌山県文化振興財団、橋本市、新宮市、上富田町

協賛:公益財団法人大桑教育文化振興財団

入場料金:無料

入場者数:県展2,875人／ジュニア県展2,433人

\*当館では一般部門を展示。華道部門と招待作家展を県民ギャラリーにおいて開催した。

#### A. 事業の内容・工夫点等

令和4年度目標	文化学術課に協力し、第76回和歌山県美術展覧会(県展)ならびに第8回和歌山県ジュニア美術展覧会を当館で開催する。
自己評価・課題・改善案	全館で県展を開催し、1階展示室でジュニア県展を開催した。会期に合わせて展示室Bでコレクション名品選を開催し、収蔵作品に触れる機会の創設に努めた。

#### B. 入館者数

令和4年度目標	10,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	県展2,875人、ジュニア県展2,433人、コレクション名品選1,476人

## ⑤和歌山移民研究を軸とした国際交流事業

### A. 事業の内容・構成・工夫点等

令和4年度目標	文化庁委託事業「博物館等の国際交流の促進事業」として、当館ならびに太地町歴史資料室、和歌山大学紀州経済史研究所からなる実行委員会により、和歌山からアメリカへの移民の歴史と芸術活動について、関連する国内外の博物館等と連携・協働し、和歌山県立近代美術館や県内関連機関が所蔵するコレクションの価値を活かしながら、持続的な国際交流事業を展開するための基盤を整えることを目的として調査、研究を行い、シンポジウムなどで発表を行う。
自己評価・課題・改善案	<p>以下の事業を実施した。</p> <p>①:日系人美術作品調査 全米日系人博物館、ゲティセンター写真部門、国立アメリカ史博物館、アメリカ美術館(スミソニアン)、ほか作家遺族宅等を調査(2022年11月)</p> <p>②:カリフォルニア地域日系人コミュニティに関する調査 リトルトーキョー、サンピドロ海洋博物館、マンザナー強制収容所等の調査、在米太地人会、南加和歌山県人会との交流(2022年11月)</p> <p>③:国内移民資料調査 国立歴史民俗博物館、移住資料館、太地町歴史資料室、和歌山大学紀州経済史文化史研究所、和歌山市立博物館、和歌山市民図書館移民資料室、カナダミュージアム、紀南エリアにおけるフィールドワーク(2022年12月)</p> <p>④:国際シンポジウムの実施 「移民と美術をめぐるシンポジウム Vol. 1 和歌山／アメリカ:研究の「現在地」令和4(2022)年12月11日、和歌山県立近代美術館ホール、日英同時通訳つき 海外招聘研究者(2名):クリステン・ハヤシ(全米日系人博物館コレクション・マネージメント&amp;アクセス担当ディレクター)、シーパー・ワン(王士圃)(カリフォルニア大学マーセド校コーツ芸術基金講座及び美術史教授、スミソニアン・ナショナル・ポートレイト・ギャラリー理事) 国内招聘研究者(2名):岡部昌幸(帝京大学文学部史学科教授/群馬県立近代美術館特別館長)、五十殿利治(筑波大学名誉教授) 県内研究者(4名):東悦子(和歌山大学観光学部教授/紀州経済史文化史研究所副所長)、櫻井敬人(太地町歴史資料室学芸員/ニューベッドフォード捕鯨博物館顧問学芸員)、山下奈津子(和歌山市立博物館学芸員)、奥村一郎 司会:青木加苗</p> <p>⑤:和歌山移民研究の教育展開 和歌山大学教育学部附属小学校および和歌山市立伏虎義務教育学校での連携授業、教員による口サンゼルス調査、全米日系人博物館と繋いだオンライン訪問等(12月~2月)</p> <p>⑥:ウェブサイト「移民と美術」の開設</p>

### 3 調査・研究

美術館長による所見	「調査・研究」は、美術館活動の根幹をなすものであり、今年度も継続して各学芸員が館内、館外で活発な活動を行ったと思う。とりわけ「稗田一穂展」と、「とびたつとき 池田満寿夫とデモクラートの作家」展では図録に成果を発表することができた。また、毎年企画展開催時の課題でもあるが、可能ならばそれぞれの企画展やコレクション「特集」展示で、図録、あるいはパンフレットを作成し、展覧会開催までの「調査・研究」の成果の公表を期待したい。
評価部会による所見	地元ゆかりの作家を資料に基づいて綿密に調査し、展覧会をはじめとした発信に結実させており、個々人の活動も多彩である。展覧会の際のレクチャー等、一般に向けた取り組みにも尽力しており評価できるが、学術論文として調査内容をまとめて公表する取り組みも必要であり、今後に期待したい。

#### ①調査・研究

##### A. 美術に関する調査・研究の展覧会・教育普及活動等への成果の反映

令和4年度目標	美術に関する調査・研究を行い、展覧会や教育普及活動に成果を反映させる。
自己評価・課題・改善案	各自が取り組む課題の研究を進め、展示やレクチャーなどの活動を行った。

##### B. 研究成果の公表

令和4年度目標	研究成果を外部に向けて公表する。
自己評価・課題・改善案	研究の成果を展覧会に結実させるとともに、館外でも執筆、講演などの活動を通じて成果を広く知らせた。

## 4 作品・資料の収集

美術館長による所見	これまでの当館の収集方針を継続し、限られた予算の中ではあったが、16点の作品を購入し、168点の寄贈作品が加わったことは、学芸員たちの日常の「調査・研究」の成果が反映されたものと評価できる。
評価部会による所見	小額ではあるが継続的に資料購入予算が配当されており、地道な収集活動につながっているものと評価される。収集方針やこれまでの収蔵作品の幅を広げる作品の収集が強く意識されており、美術館の収蔵活動の模範となる内容である。 また多くの質の高い作品寄贈の申し出があるのも、収集のみならず着実な活動を評価されていることである。収蔵作品の保存と展示を通じての紹介活動が館全体の活動評価につながっているものと考えられる。

### ①作品・資料の収集

#### A. 美術作品収集方針に沿った作品・資料の収集(コンプライアンス、収集手続き)

令和4年度目標	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行う。
自己評価・課題・改善案	美術作品選定委員会を開催し、諮問の上適正に作品を収蔵した。

#### B. 購入、受贈に係る作品・資料の点数、内容

令和4年度目標	購入・受贈において作品・資料の点数、内容が適切であるようにする。
自己評価・課題・改善案	16点の購入、16件168点の寄贈があり、収蔵作品点数は14,423点となった。

### ②図書資料の収集・公開

#### A. 図書資料の収集、研究や閲覧への活用

令和4年度目標	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用する。
自己評価・課題・改善案	単鉤図書、逐次刊行物の収集を行う他、ガレリア・グラフィカ旧蔵の書籍の獲得に成功した。

## 5 作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等

美術館長による所見	コレクションの次代への継承を可能とする作品・資料の状態調査や保存修復も、美術館活動にとって欠かせない作業であるが、当館は、公立館としてこの点を重視し、外部の修理機関の協力も得て、適切な管理運営が行われている。また、作品保存にふさわしい環境の維持管理にもつとめている。
評価部会による所見	IPM など最新の知見や方法を取り入れながら作品の保存活動を継続しており、外からは見えにくい地道な活動であるが、美術館全体の存続を下支えするものとして評価すべきである。残念ながら破損してしまった石垣栄太郎作品の修復にも継続して取り組んでおり、修復に割ける費用にも限りがある中で、できる限りの取り組みを行っていることは美術館運営にとって必須の姿勢とすることができる。

### ①作品・資料の状態調査

令和4年度目標	作品・資料の状態調査を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	展示、貸出の機会にあわせて継続的に所蔵品の状態を調査し、保存上の対策を必要とする作品については、マウントや額の改良・交換を中心に処置を進めた。

### ②作品・資料の保存環境

令和4年度目標	作品・資料にとって適切な保存環境を保ち、整備する。
自己評価・課題・改善案	館内が作品保存にふさわしい環境であるように整備、管理した。

### ③作品・資料の保存修復

令和4年度目標	作品・資料に対し適切な保存修復を行う。
自己評価・課題・改善案	織田一磨作品8点、石垣栄太郎作品は修復に時間がかかり、継続して修復していただいている。

### ④作品・資料の管理

#### 作品・資料の管理

令和4年度目標	作品・資料の管理(台帳・データベース)を適切に行い、内容を公開する。
自己評価・課題・改善案	データベースを整理し、文化遺産オンラインなどで情報を公開している。

## 6 教育普及

美術館長による所見	新型コロナウイルス感染拡大防止のため来館目標を設定できない状況にはあるが、それでも目標を上回る団体の受け入れ、そして感染防止対策を徹底した解説の実施などにも努力の成果が現れている。
評価部会による所見	<p>新型コロナウイルス感染拡大という困難な状況にありながらも様々な取り組みを行い、実りの多い活動を行っている。</p> <p>「なつやすみの美術館」展に際しての教員らとのワークシート作成や、「こども美術館部」、和歌山大学と連携した「美術館部」の活動などは特筆すべきである。ただ、学校や、特に幼稚園からの来館は更に増えるように取り組みを行っていく必要がある。</p> <p>また充実した展示を行っているのであるから、その内容がより一層伝わるよう、特にコレクション展において来館時にいつでも取り組むことができるワークシートやアートカードなどの鑑賞教材の開発、制作が望まれる。</p> <p>WAKAYAMA COFFEE MARKET 等、地域主催のイベントの受入も行き、にぎわいの創出への取り組みを行っていることは評価できるが、それが来館者の増加、ひいては文化的関心の高揚に結びつくような取り組みを希望したい。</p> <p>展覧会の内容や活動をより広く知ってもらうための取り組みも一層要請されるが、専任の職員の配置がなければ困難であるものと思われる。</p>

### ①教育普及活動

#### A. 学校教育団体からの来館を受入れる

令和4年度目標	120件程度を目標としているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため来館目標を設定できない状況にある。
自己評価・課題・改善案	131件 3,788名の団体を受け入れ、うち107件 2,869名に解説などの対応を行った。

#### B. 鑑賞教材等の制作等の工夫

令和4年度目標	来館に際して教材開発などの工夫を行う。
自己評価・課題・改善案	教員らとともに「なつやすみの美術館」展を題材とするワークシートの作成に取り組んだ。

#### C. 講演会・解説会・体験的プログラム等の実施

令和4年度目標	25回を目標としているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため受入回数を目標として設定できない状況にある。
自己評価・課題・改善案	展覧会に関連するフロアレクチャーや講演会等を45回開催し1038名の参加があった。

### ②県民や地域との連携

#### A. ボランティア活動の受け入れ

令和4年度目標	図書ボランティア等の活動を受け入れる。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症感染防止のため活動を休止している。

#### B. 友の会等の支援組織の活動への協力

令和4年度目標	友の会、NPO等の芸術文化支援組織の活動に協力する。
自己評価・課題・改善案	友の会は自主事業のほとんどが中止となったが、版画プレゼントの作家選定に協力した。またコンサートへの協賛をいただいた。NPO 和歌山芸術文化支援協会によるアーティスト・イン・レジデンス事業やワークショップなどに協力した。

### C. 学校・教員等と連携した事業

令和4年度目標	地域の教員等と連携して和歌山美術館教育研究会を組織し、中学校での宿題としての展覧会利用やワークシート制作などに取り組む。和歌山大学教育学部と県教育委員会の連携事業の一環として、和歌山大学教育学部、同附属小学校・中学校と連携して展覧会を課題とした鑑賞、制作、指導法の策定に取り組む。和歌山市美育協会に協力し、鑑賞に関する研修会を開催する。学校教員との協力体制の強化を目的とした研修会を継続して開催する。
自己評価・課題・改善案	和歌山美術館教育研究会を継続して実施するほか、中学校教科等研究会、日本教育美術連盟 図工・美術教育研究全国大会、全国高等学校美術工芸教育研究会 第65回近畿地区府県代表者会議等の開催に協力し、連携関係を深めた。

### D. 地域と連携した事業

令和4年度目標	地域と連携した事業を行う。第76回和歌山県美術展覧会(県展)、第8回ジュニア県展を文化学術課との連携のもとに実施する。県警音楽隊たそがれコンサートへの事業協力を行う他、関西文化の日等のイベントへの事業協力を行う。
自己評価・課題・改善案	第76回和歌山県美術展覧会(県展)、第8回和歌山県ジュニア美術展覧会(ジュニア県展)の開催を開催する他、県警音楽隊たそがれコンサート、WAKAYAMA COFFEE MARKET Communication over Coffee!、わかやまミュージアムパレット2022、きのくに建築賞審査会等の開催に協力した。

### E. 観光資源として活用できる方策

令和4年度目標	近隣の集客施設に広報印刷物を配布し、利用についてアピールする。
自己評価・課題・改善案	友の会等を通じて広報印刷物を配布する他、オリジナルスタンプによるスタンプラリーを実施し通年のリピーター獲得に取り組んだ。

## ③人材育成

### A. 博物館実習生・インターンシップ・教員研修などの受け入れ

令和4年度目標	博物館実習生・職場体験学習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
自己評価・課題・改善案	3大学から3名の博物館実習生を受け入れた他、教育庁、教育総務課のインターンシップ等を受け入れた。

## ④印刷物の刊行

令和4年度目標	機関誌「NEWS」を年4回刊行、年報を刊行する。
自己評価・課題・改善案	機関紙「NEWS」を年4回、各2,500部を発行した。

## ⑤広報印刷物の制作

### A. ポスター・チラシ・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動

令和4年度目標	展覧会にあわせポスター・チラシ・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動を行う。
自己評価・課題・改善案	令和4年度展覧会カレンダー 6.1×10.5cm 巻き5ツ折(10頁)を製作(10頁)する他、各展覧会でポスター、チラシ等を制作し配布して展覧会の周知を図った。

## ⑥メディア等への情報発信

### A. 掲載件数、メディアへの広報・情報提供活動、番組制作等への協力

令和4年度目標	メディアへの広報・情報提供活動を行う。番組制作等に協力する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシに加えて展覧会ごとにプレスリリースを作成しメディアを中心に情報発信を行った。

## ⑦WEBによる広報

### A. ホームページアクセス件数・更新回数・工夫

令和4年度目標	ホームページ月間ページビュー数 15,000 件を目標とする。
自己評価・課題・改善案	展覧会の内容を大きく紹介することを主眼に、適宜情報発信できる、利用しやすいページデザインに取り組んだ。

### B. メールマガジン等の発行回数・工夫

令和4年度目標	10 回を目標とする。メールマガジンに画像を加える等興味を引く工夫をする。
自己評価・課題・改善案	2022年5月1日発行の171号から2022年3月31日発行の183号まで計12回発行した。

### C. SNSによる情報発信

令和4年度目標	SNS を利用した情報発信を適宜行う。
自己評価・課題・改善案	Facebook、Twitter、Instagram 等を通じた情報発信に努めた。

## ⑧県民への直接的情報提供

### A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)への対応

令和4年度目標	専門的内容に関する問い合わせ・質問(電話・来館等)に対応する。
自己評価・課題・改善案	作品に関する問い合わせなどに適宜対応した。

## 7 国内外との連携

美術館長による所見	当館のコレクションの他機関への貸出については、可能な限り対応していると思われ、新政策による田辺市立美術館への協力、広島市現代美術館と合同で展覧会を組織し、宇都宮美術館へ巡回するとともに、次年度には長野県立美術館での開催も予定されている。そして、文化庁委託事業として和歌山移民研究を軸とした国際交流事業におけるシンポジウムの開催も、次年度開催の特別事業「トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」への継続展開が期待される。
評価部会による所見	他館への作品貸付は、作品保存やコレクション展の内容との兼ね合いでむづかしいところもあるものと思われるが、その中で可能な限り対応していることがうかがわれる。他館の企画の中で収蔵作品の新たな側面が見出されることもあり、貸出については館の努力が感じられる。 田辺市立美術館との協力による取り組みや、移民関連の事業に関する様々な研究者、機関との連携、「とびたつとき」展での他館との協力など、それぞれに充実した成果を上げていると言える。連携活動にも経費が必要であり、財政的に困難な中で連携活動に取り組む姿勢は高く評価するべきである。

### ①他機関への作品・資料の貸出し

令和4年度目標	他機関へ作品・資料を貸出す。
自己評価・課題・改善案	8件の展覧会に総数145点を貸し出した。

### ②国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開

令和4年度目標	国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開を行う。展覧会を共同で企画、実施する。
自己評価・課題・改善案	田辺市立美術館と共同で「稗田一穂展」を開催するとともに妻木良三ワークショップを実施した他、文化庁委託事業として和歌山移民研究を軸とした国際交流事業を実施。また広島市現代美術館、宇都宮美術館、長野県立美術館とともに「とびたつとき」展を企画、開催した。

## 8 安全と快適性

美術館長による所見	今年度も、将来にわたる施設・設備の修繕工事についても、実施設計など調査・検討を行い、その維持管理について継続して配慮するとともに、なお、新型コロナウイルス感染症拡大予防や、危機管理・防災体制について取り組み、欠かせぬ重要課題としての認識の重要性について喚起できたと思われる。
評価部会による所見	築三十年を前に、老朽化した部分の改修に着実に取り組んでいる。外壁タイルの補修は完了したが、引き続きエレベーターや空調機器の交換、改修が必要であり、着実に取り組んでいただきたい。工事の際に展示や来館者への拝領を欠かさないように注意が求められる。近年、長期に休館して一気に改修を行う施設も多いが、改修期間が細切れになるのは運営上困難も多いものと考えられ、綿密な計画に基づく運営を求めたい。

### ①施設・設備の維持管理

#### A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等による安全確保

令和4年度目標	施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等によって安全確保を行う。新型コロナウイルス感染拡大防止に対する必要な方策を取る。
自己評価・課題・改善案	消毒剤を設置して手指消毒を実施し、モニターによる体温の計測を行う他、マスクの着用などの感染対策を職員が行うとともに来館者にも呼びかけ、感染拡大の防止に努めた。

#### B. 施設・設備の改修や新たな整備

令和4年度目標	経年劣化による各設備老朽化に対し、修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	外壁改修工事を実施する他、劣化箇所の修繕を逐次行った。

#### C. 日常的なメンテナンス等による施設的美観の保持・衛生管理

令和4年度目標	日常的なメンテナンス等により施設的美観の保持・衛生管理を行う。
自己評価・課題・改善案	日常的なメンテナンスを行い、設備の保持を行った。

#### D. 長期修繕計画

令和4年度目標	長期修繕計画に基づき、計画的に修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	長期修繕計画が策定できていないが、エレベーター改修工事に伴う実施設計を行った。

### ②快適性の向上

#### A. バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応

令和4年度目標	バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応を取る。
自己評価・課題・改善案	必要に応じて導線上の点字ブロックの修繕、自動ドア等の改修を行った。

#### B. 利用者に対する接遇

令和4年度目標	利用者に対し適切な接遇を行う。接遇の向上を図る。
自己評価・課題・改善案	職員に対し、利用者への適切な対応をするよう指導した。

#### C. 快適性向上のための上記以外の取り組み

令和4年度目標	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、改善を図る。
自己評価・課題・改善案	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、恒常的な雨漏りの修繕を行うなどの改善を図った。

### ③危機管理

#### A.危機管理・防災体制

令和4年度目標	新型コロナウイルス感染症拡大予防とともに、危機管理・防災体制について、実地訓練等を行う。同体制について日常的な取り組みを行う。
自己評価・課題・改善案	防災訓練を実施し、危機管理体制について周知する取り組みを行った。

#### B.個人情報の保護・データ管理

令和4年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	講演会等の展覧会関連事業開催に伴う参加者及び学芸員育成にかかる実習生の情報管理を適切に行った。

### ④職員研修

#### A.館内外の研修参加実績

令和4年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加できる体制をとる。研修参加は各職員あたり2回以上の参加を目指す。
自己評価・課題・改善案	研修への参加には、できる限り対応したが、各職員2回以上は達成できなかった。

### ⑤情報公開・利用者のニーズなどの把握

#### A. 使命、目標、計画などの方針の公開

令和4年度目標	使命、目標、計画などの方針をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	<a href="https://www.momaw.jp/outline/mission/">https://www.momaw.jp/outline/mission/</a> に公開している。

#### B. 実績や評価結果の公開

令和4年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	<a href="https://www.momaw.jp/outline/assessment/">https://www.momaw.jp/outline/assessment/</a> に公開している。

#### C. 入館者情報(年齢層・地域・情報入手手段等)の把握

令和4年度目標	入館者情報の把握を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより入館者情報の把握を行った。

#### D. 利用者の満足度・ニーズなどの把握

令和4年度目標	利用者の満足度・ニーズなどの調査を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより利用者の満足度、ニーズなどの調査を行った。

#### E. 調査結果等を反映した運営

令和4年度目標	満足度・ニーズなどの調査結果を反映した運営を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートなどにより指摘のあった故障箇所などの修繕に対応している。

## 9 入場者数と財源の確保

美術館長による所見	新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される状況で、入場者数が目標を上回ったことは評価できると思われるが、それにもなう入館料収入の目標額の達成、さらには外部助成金等、外部資金獲得の方策について、今後も継続して努力しなければならない。
評価部会による所見	コロナ禍の収束が見えない中で、目標に届いていないところもあるが、着実に活動しているものと考えられる。外部資金も獲得できており、事業に厚みが生まれたことは喜ばしい。ただ、従来から指摘のあるように、展覧会事業費が少なすぎて活動に支障を来しているものと思われ、事業予算の増額を考える必要がある。国立科学博物館のクラウドファンディングが注目されているが、クラウドファンディングを成功させるためにはその企画、広報に長けた専門の職員が必要であり、目的と目標と方法がしっかりしていなければうまくいくものではない。

### ①入場者数

#### A.入場者数

令和4年度目標	入場者数は45,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	55,727人であった。

### ②予算の確保

#### A. 入館料収入 達成率

令和4年度目標	当初予算6,542千円に対する達成率を100%とする。
自己評価・課題・改善案	5,845千円であり89.3%の達成であった。

#### B. その他の収入確保

令和4年度目標	駐車場収入3,792千円、行政財産使用料1,641千円、その他1,761千円を目標とする。
自己評価・課題・改善案	駐車場収入3,244千円、行政財産使用料1,664千円、その他1,448千円であった。

#### C. 外部助成金等の獲得

令和4年度目標	助成金の獲得に向けて応募する。
自己評価・課題・改善案	文化庁令和4年度「博物館等の国際交流の促進事業委託業務(実施事業)」として12,887,671円、一般財団法人地域創造より「稗田一穂展」に対して5,919,000円の助成を得た。また「ミティラー美術館コレクション展」については県国際課より1,000,000円の配当を得て実施した。

